

富津市総合戦略素案の骨子

第1章 人口ビジョンについて

第1 基本的な考え方

- 1 本人口ビジョンは、本市人口の現状と将来の姿を示し、市民とともに人口問題に関する基本認識を共有し、目指すべき将来の方向を示すため策定する。
- ・各種統計データやアンケートによる意識調査の結果等を用いて現状分析を行い、地に足のついた客観的な人口ビジョンを策定する。
- 2 期間は、25年後の2040年までとする。

第2 人口の現状分析

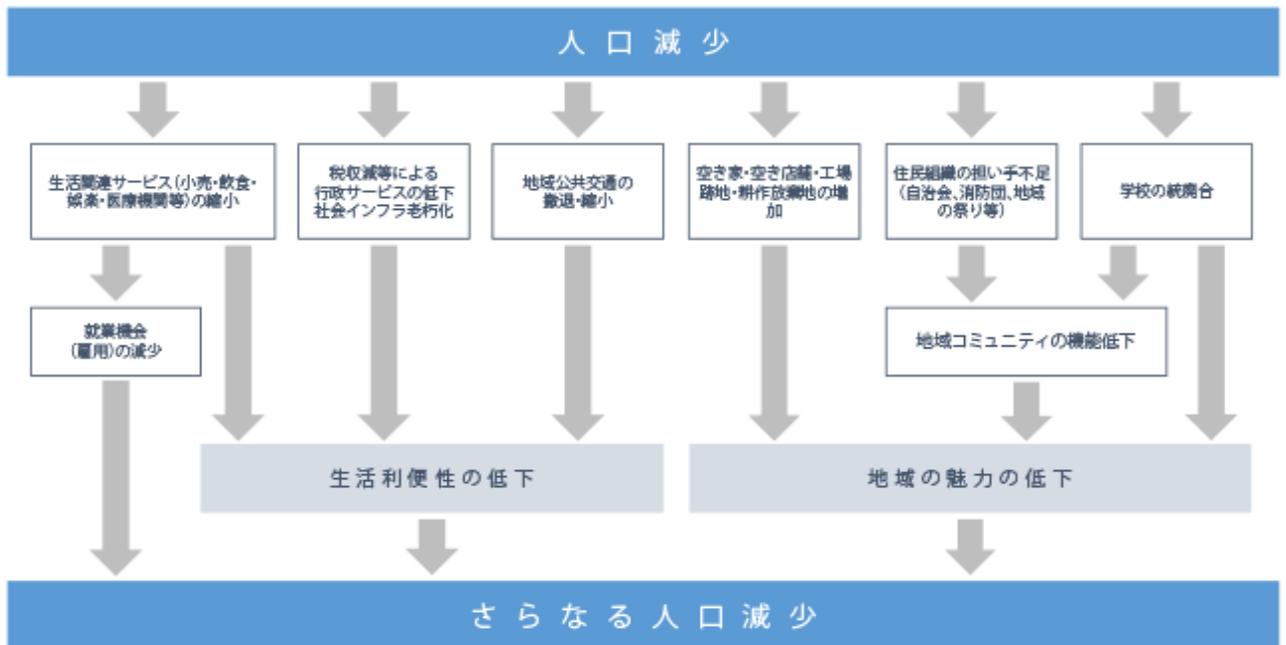
1 人口動向の分析

- ・少子高齢化により、国・県とは違い1985（昭和60）年から続く人口減少
- ・県内最低水準の出生率1.06
- ・近隣市への転出超過、特に若年女性の転出超過

2 将来人口の推計と分析

- ・社人研推計では、現在まで続く年少人口の減少が、この先もずっと続いていくこととなり、今から手を打ってもすぐには止められない。このため、可能な限り早期に年少人口減少の抑止策を実施しなければ、将来、富津市の人口減少に歯止めがかからなくなる（気づいたときには間に合わないという、手遅れの状態に陥る）危険性が高いという現実を認識する必要がある。
- ・生産年齢人口及び年少人口は減少の見込み
- ・高齢者人口も2025年以降減少見込み

3 人口減少による影響



資料) 国土交通省

第3 人口の将来展望

1 将来展望に必要な調査分析

- ・ 市民意識調査、市外居住者アンケート、転出者アンケート等の結果を説明

2 目指すべき将来の方向

- ・ 各種アンケートで判明した結果を受けて、年少人口減少を抑制する方向を提示。
- ・ 人口減少に歯止めをかけるための施策は、効果が出るまでに20～30年（1世代）かかるため、今からただちに策を講じて年少人口減少を抑止する必要がある。

3 人口の将来展望

- ・ 2040年で富津市推計(34千人)とする(グラフ)。
- ・ 富津市推計は、子育て環境に関する市民の希望出生率(1.83)を達成すること、総合戦略に掲げる施策の実行によって転出抑制とファミリー層転入を実現することが共にできた場合には2040年に34千人の人口規模となる。
- ・ 個人、地域、民間、行政が、それぞれ何ができるのか、果たすべき役割を認識し、互いに連携して実行していくことで、将来的に年少人口減少に歯止めをかけることが望ましい。

第2章 富津市総合戦略

第1 基本的な考え方

1 理念

富津市には、青堀、大貫、佐貫町、上総湊、竹岡、浜金谷と6つのJR駅があり、それぞれその周辺には昔からまちが形成され、豊かな里海、里山はその恵みをここに住む人々に提供してきました。

しかし近年、低い出生率と若年層の転出が続き、富津市は少子高齢化によるさまざまな課題を抱えています。

そこで、少子化に歯止めをかけ、将来にわたって市民ひとりひとりが「わがまちふつつ」に誇りをもち、「ひととひととが笑顔でつながり、育つまち」を実現するため、市民、地域、行政が一丸となって進むべき方向、取り組むべき施策をまとめた富津市総合戦略を作成しました。

本当の意味で市民、地域、行政が一丸となるために、今までの行政主導による計画策定の手法ではなく、計画策定段階から市民の皆さんに参画してもらい、ゼロベースから市民と行政が一緒になってつくり上げていく手法で総合戦略を策定することとしました。

無作為抽出された15歳以上の市民に参加希望者を募り、新たに富津市民委員会を立ち上げ、そこで総合戦略の基となる様々な提案をしていただきました。その提案を富津市のさまざまな分野の第一線で活躍される方を中心に構成する富津市創生会議で練り上げ、富津市ならではの戦略を策定することを目指しました。

こうしてつくり上げた「富津市総合戦略」は富津市の宝です。この宝をこれから市民の皆さんと一緒に実行してまいります。

※市民委員会(花田さん写真)、創生会議の写真等を掲載

市民委員会で花田さんを招いた旨と花田さんの発言を写真の説明として記載

「富津は、東京に近く、富士山がとてもきれいに眺められ、海も山もイオン SC もあり、足りないところはない。以前住んでいた東京と比べ、安全安心で子育て環境もとても素晴らしい。」

2 総合戦略の位置付け

- ・本計画は、第3次基本計画に続くものとして位置づける。現基本計画の施策の方向性は、分野別計画に委ねる。

3 計画期間

- ・平成27年度から平成31年度の5年間

4 進行管理

- ・PDCAサイクルにより、定期的に修正、時点更新を実行します。
- ・その他、社会情勢の変化等に応じて弾力的に必要な修正を実施します。
- ・戦略策定段階、実行段階だけでなく、進行管理の段階でも市民の参画を実現するため、富津市創生会議と富津市民委員会による進行管理を実施します。

第2 総合戦略における戦術

1 シティプロモーション

- ・交流人口の増加や移住促進を図るためには、富津市の魅力を市外にPRしていくことが重要です。また、市民が自分の住むまちに誇りと愛着をもつためには、行政が積極的に情報発信を行い、富津市にはこんなに素晴らしいところがあるということを市民に知ってもらうことも重要です。このことから、市外、市内の2つの方向への情報発信を富津市総合戦略におけるシティプロモーションとし、戦略全体を通して共通する視点としています。
- ・「職員が地元の良さを知らない。」ということでは、行政が積極的に市民に情報発信をしていくことはできません。職員の情報処理、情報発信能力（つなぐ力）を向上し、市民と対話できる職員を育てる必要があります。

「ふつつ」は、東京湾の玄関口にあり、字のとおり「ゆたかな海」のあるまちです。海は世界に通じる道であり、ゆたかな海は、その背後にゆたかな田園地帯、里山があるからです。この富津は、アクアラインで東京から1時間、羽田空港から40分です。首都圏にありながら、マンションなどの高層建築物のない奇跡のまちにぜひ来てください。味わってください。住んでください。首都圏の田舎です。広大な「富津公園、ふれあい公園、ふつつ港公園」もあります。南関東最大級の前方後円墳もあります。地価は格安です。ここからは、東京湾の向こうの富士山を眺めながら、海と房総丘陵からの新鮮な幸に舌鼓をうつことができます。

このような市の環境から、市のプロモーションテーマを次のとおりとします。

（仮題）富士山を望む東京湾自然海岸都市「ふつつ」

2 住民参画

- ・戦略策定の段階だけでなく、戦略の実行、進行管理の段階でも市民と一緒に進めていくことが大切です。
- ・このため、市民、地域、行政が互いに連携しながら、それぞれができることを実行するという役割を果たすという視点から、「第3 基本目標」で施策を記載するに当たり、市民、地域、行政という実施主体別に整理しました。

3 経営改革の推進

- ・富津市総合戦略に策定した施策を着実に実行するためには、財源を確保する必要があります。
- ・総合戦略の実効性を担保する意味で、経営改革を推進して健全な財政運営を行っていくことが重要です。

第3 基本目標（「戦略 基本目標本文イメージ」参照）

- 1 自分が暮らす地域を好きになる
- 2 暮らしやすく、移住しやすい環境づくり
- 3 子供の笑顔があふれるまちへ
- 4 市の産業・仕事をつくる

基本目標

■子供の笑顔があふれるまちへ

基本目標が実現したイメージを記載します

〇〇〇〇

△%

基本目標の達成度合いを計る
指標を設定します

基本的な施策の方向

○子育て支援制度の充実

既存の公民館等利用して、気軽に立ち寄れる子育て相談の場を創る。

保育所（園）で実施している各種保育サービスを利用しやすいよう、PRを工夫する。

市民委員会・創生会議での意見

- ・子どもや子育てについてワンストップで相談できる窓口がない。
- ・子どもや子育て世帯とのコミュニケーションが不足している。
- ・子育て世帯への情報提供が不足している。

具体的な取り組み

市民の できること	地域・民間の できること	行政の取組	
		具体的な施策	KPI
<ul style="list-style-type: none"> ・ 周りの子ども達に声を掛けるようにする。 ・ 親がわがままや常識とかけはなれたことを言わないようにする。 ・ コミュニケーションを大事にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 若い人がどの程度いるか知ってもらい高齢者が声をかける。 ・ 地域みんなで子どもに声を掛けたら仲間に入れたりする。 ・ 親世代を教育する。 ・ ダメなものは注意できる空気を作る。 ・ 子育て交流できる場を作るなどの支援をする。 	市民ニーズに沿った保育サービスを実施する。	ファミリーサポートセンター登録者：0⇒50人 保育所待機児童「ゼロ」の維持 0⇒0人

シティプロモーション